

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3202234号
(U3202234)

(45) 発行日 平成28年1月28日 (2016. 1. 28)

(24) 登録日 平成28年1月6日 (2016. 1. 6)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 1 D 1/22 (2006.01)

A 4 1 B 9/06 (2006.01)

A 4 1 D 1/22 B

A 4 1 B 9/06 D

A 4 1 B 9/06 E

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2015-5690 (U2015-5690)	(73) 実用新案権者	591247709
(22) 出願日	平成27年11月9日 (2015. 11. 9)		株式会社ローズマダム
実用新案法第11条において準用する特許法第30条第2項適用申請有り 平成27年9月15日の販売開始をもって、新規性喪失の例外とする			東京都墨田区菊川3丁目20番7号
		(74) 代理人	100114258
			弁理士 福地 武雄
		(74) 代理人	100125391
			弁理士 白川 洋一
		(72) 考案者	庄司 芳樹
			東京都墨田区菊川3丁目20番7号 株式会社ローズマダム内

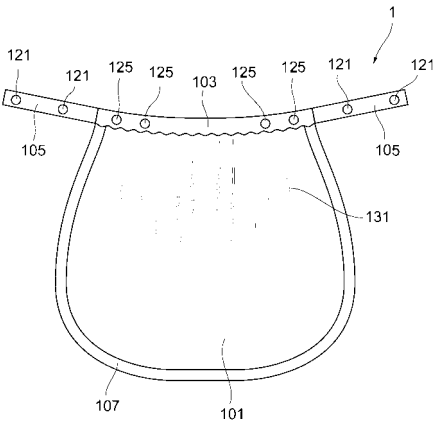
(54) 【考案の名称】 授乳ケープ

(57) 【要約】

【課題】 インナーウェアに装着し、授乳時にユーザの胸部を被覆することができる授乳ケープを提供する。

【解決手段】 本考案の授乳ケープ1は、インナーウェアに装着し、少なくとも胸部を被覆する授乳ケープであって、台形状に形成された前身頃部101と、前記前身頃部101の上底に設けられた衿ぐり部103と、前記衿ぐり部103の両端に設けられた一对の調整ベルト105と、一方が前記衿ぐり部103に設けられ、他方が前記各調整ベルト105に設けられ、前記衿ぐり部103と前記各調整ベルト105に係合させる少なくとも一对の留め具(121、125)と、を備え、前記各調整ベルト105は、インナーウェアの一部に、巻回され前記衿ぐり部103に各留め具(121、125)で固定されることを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

インナーウェアに装着し、少なくとも胸部を被覆する授乳ケープであって、
台形状に形成された前身頃部と、
前記前身頃部の上底に設けられた衿ぐり部と、
前記衿ぐり部の両端に設けられた一对の調整ベルトと、
一方が前記衿ぐり部に設けられ、他方が前記各調整ベルトに設けられ、前記衿ぐり部と
前記各調整ベルトを係合させる少なくとも一对の留め具と、を備え、
前記各調整ベルトは、インナーウェアの一部に、巻回され前記衿ぐり部に各留め具で固
定されることを特徴とする授乳ケープ。

10

【請求項 2】

前記衿ぐり部に、ギャザーが形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の授乳ケー
プ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、インナーウェアに装着し、授乳時にユーザの胸部を被覆する授乳ケープに関
する。

【背景技術】

【0002】

従来から、授乳時に胸元を隠すため、胸元をスカーフ等の布で覆うなどして、授乳を行
なっていた。しかし、授乳中に布がずり落ちてしまうなどの問題があった。そこで、この
ような問題を解決しつつ、周りの人目を気にせず授乳を行なう衣服に関する提案がなされ
ている。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 1 5 7 7 5 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

30

【0004】

しかしながら、上記の授乳ケープは、授乳者の首から下を覆う大きなサイズの授乳ケー
プであるため、授乳時に胸元を隠すことはできるが、外出する際には、持ち歩く必要があ
り、荷物となってしまう。

【0005】

本考案は、このような事情に鑑みてなされたものであり、インナーウェアに装着し、授
乳時にユーザの胸部を被覆することができる授乳ケープを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

(1) 上記の目的を達成するために、本考案は、以下のような手段を講じた。すなわち
、本考案の授乳ケープは、インナーウェアに装着し、少なくとも胸部を被覆する授乳ケー
プであって、台形状に形成された前身頃部と、前記前身頃部の上底に設けられた衿ぐり部
と、前記衿ぐり部の両端に設けられた一对の調整ベルトと、一方が前記衿ぐり部に設けら
れ、他方が前記各調整ベルトに設けられ、前記衿ぐり部と前記各調整ベルトを係合させる
少なくとも一对の留め具と、を備え、前記各調整ベルトは、インナーウェアの一部に、巻
回され前記衿ぐり部に各留め具で固定されることを特徴とする。

40

【0007】

このように、台形状に形成された前身頃部と、前身頃部の上底に設けられた衿ぐり部と
、衿ぐり部の両端に設けられた一对の調整ベルトと、一方が衿ぐり部に設けられ、他方が
各調整ベルトに設けられ、衿ぐり部と各調整ベルトを係合させる少なくとも一对の留め具

50

と、を備え、各調整ベルトは、インナーウェアの一部に、巻回され衿ぐり部に各留め具で固定するので、ユーザ自身のインナーウェアに簡単に装着することができる。また、留め具を複数設けた場合に、ユーザ自身で自分のサイズに合うよう調整ベルトの長さを調整することができる。その結果、授乳時には、授乳ケーブの裾をアウターウェアの外に出し、授乳時のユーザの胸元を被覆する授乳ケーブとして用いることができる。さらに、授乳時以外は、アウターウェアの中に授乳ケーブを収めて、インナーウェアとして用いることができる。

【0008】

(2) また、本考案の授乳ケーブは、前記衿ぐり部に、ギャザーが形成されていることを特徴とする。

10

【0009】

このように、衿ぐり部に、ギャザーが形成されているので、授乳ケーブをインナーウェアに装着した際に、ユーザの胸元にフィットし、胸部を外部から隠すことができる。

【考案の効果】

【0010】

本考案によれば、インナーウェアに装着し、授乳時にユーザの胸部を被覆することができる授乳ケーブを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】 本実施形態に係る授乳ケーブの構成を示す図である。

20

【図2】 本実施形態に係る授乳ケーブの装着方法の一例を示す図である。

【図3】 本実施形態に係る授乳ケーブの使用法を示す図である。

【図4】 本実施形態に係る授乳ケーブを授乳時に用いた様子を示す図である。

【図5】 本実施形態に係る授乳ケーブを授乳時以外に用いた様子を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【0012】

本考案者は、授乳ケーブに調整ベルトと留め具を設け、少なくとも胸部を覆うサイズの形状を有することによって、ユーザ自身のインナーウェアに着脱可能で使いやすく、コンパクトな設計の授乳ケーブを提供できることを見出し、本考案をするに至った。

【0013】

30

すなわち、本考案の授乳ケーブは、インナーウェアに装着し、少なくとも胸部を被覆する授乳ケーブであって、台形状に形成された前身頃部と、前記前身頃部の上底に設けられた衿ぐり部と、前記衿ぐり部の両端に設けられた一对の調整ベルトと、一方が前記衿ぐり部に設けられ、他方が前記各調整ベルトに設けられ、前記衿ぐり部と前記各調整ベルトに係合させる少なくとも一对の留め具と、を備え、前記各調整ベルトは、インナーウェアの一部に、巻回され前記衿ぐり部に各留め具で固定されることを特徴とする。

【0014】

これにより、本考案者は、授乳ケーブをユーザ自身のインナーウェアに簡単に装着することを可能とした。また、留め具を複数設けた場合に、ユーザ自身で自分のサイズに合うよう調整ベルトの長さを調整することを可能とした。その結果、授乳時には、授乳ケーブの裾をアウターウェアの外に出し、授乳時のユーザの胸元を被覆する授乳ケーブとして用いることを可能とし、さらに、授乳時以外は、アウターウェアの中に授乳ケーブを収めて、インナーウェアとして用いることが可能となる。

40

【0015】

図1は、本実施形態に係る授乳ケーブ1の構成を示す図である。授乳ケーブ1は、台形状に形成された前身頃部101、前身頃部101の上底に設けられた衿ぐり部103、および衿ぐり部103の両端に一对の調整ベルト105を備えている。また、衿ぐり部上および調整ベルト上には、衿ぐり部と各調整ベルトに係合させる少なくとも一对の留め具(121、125)を備えている。

【0016】

50

前身頃部 101 は、不透過でかつ柔軟性と伸縮性を有する布で形成されている。前身頃部の端部 107 は、パイピングによって、捲れないように縫製されている。衿ぐり部 103 は、ギャザー 131 を形成するように縫製され、その縫製箇所を覆うようにレースが縫われている。このように、衿ぐり部 103 にギャザー 131 を設けることにより、伸縮性を有し、ユーザの胸元にフィットする構造となっている。

【0017】

留め具 (121、125) は、凸型 (オス) 125 と凹型 (メス) 121 とから成るスナップボタンを用いている。衿ぐり部 103 上には、凸型 (オス) 125 が、調整ベルト 105 に掛からないように設けられている。一方、調整ベルト 105 上には、凹型 (メス) 121 が、衿ぐり部 103 に掛からないように設けられている。スナップボタンの凸型 (オス) 125 および凹型 (メス) 121 の設置位置は、衿ぐり部 103 と調整ベルト 105 が逆でも良く、衿ぐり部 103 と各調整ベルト 105 を係合させることができるよう一対の留め具 (121、125) として、設けられていれば良い。また、留め具 (121、125) は、スナップボタンでも良いし、ホックやマジックテープ (登録商標) でも良い。そして、前身頃 101 の裏側には、ネームタグが設けられていても良い。

【0018】

授乳ケーブ 1 の仕上がり寸法は、前身頃部 101 の前中心丈 (上り寸) は 35.00 (±0.7) cm、前身頃部 101 の前中心巾 (上り寸) は 55.65 (±0.8) cm、衿ぐり部 103 (上り寸) は 24.00 (±0.6) cm、各調整ベルト 105 の長さ (上り寸) は 10.50 (±0.5) cm、調整ベルト 105 巾 (上り寸) は 1.50 (±0.2) cm がより好ましいが、少なくともユーザの胸部を覆う寸法であれば、これに限らない。

【0019】

図 2 は、授乳ケーブ 1 の装着方法の一例を示す図である。図 2 に示すように、授乳ケーブ 1 は、例えば、ブラジャーのストラップ 201 に、授乳ケーブ 1 の調整ベルト 105 を巻き付け、調整ベルト 105 上のスナップボタン (凹型 (メス) (121)) と衿ぐり部 103 上のスナップボタン (凸型 (オス) (125)) を用いて留めることができる。本実施形態では、調整ベルト 105 上のスナップボタン (凹型 (メス) (121)) および衿ぐり部 103 上のスナップボタン (凸型 (オス) (125)) がそれぞれ 2 つずつ設けられているので、留め方の組み合わせは 4 通りあり、ユーザ自身で自分のサイズに合うよう調整ベルト 105 の長さを調整することができる。

【0020】

以上説明したように、本考案の授乳ケーブは調整ベルトと留め具を有しているため、着脱可能な使いやすい設計となっている。そのため、ユーザが持っている衣類に取り付けて使用することができる。また、衿ぐり部は、パイピングやレースなどが施されているため、見た目も美しく、胸元の開いた衣服のインナーウェアとして身に着けることもできる。さらに、本考案の授乳ケーブは、コンパクトな設計となっているため、バックなどに入れて持ち歩いてもかさばらない。

【0021】

次に、本考案の授乳ケーブの使用方法について、説明する。図 3 は、授乳ケーブ 1 の使用方法を示す図である。図 3 に示すように、授乳ケーブ 1 をブラジャー 2 等のストラップ 201 に装着して使用する。また、授乳ケーブを装着した後に、アウターウェアとして胸元の開いた洋服 5 を着ることにより、授乳ケーブをインナーウェアとして用いることができる。授乳ケーブ 1 をブラジャー 2 等のストラップ 201 に装着して使用できるので、授乳時に胸元を覆うための衣類やスカーフなどを持ち歩く必要がなく、外出時の荷物も少なくすることができる。そして、授乳ケーブは、サイズもコンパクトに設計されているため、かさばることがなく、持ち歩いた場合でも便利である。

【0022】

図 4 は、授乳ケーブ 1 を授乳時に用いた様子を示す図である。このように、授乳時には、授乳ケーブ 1 の裾をアウターウェアの外に出し、授乳時のユーザの胸元を被覆する授乳

ケーブとして用いることができる。

【0023】

図5は、授乳ケーブ1を授乳時以外に用いた様子を示す図である。このように、授乳時以外は、アウターウェアの中に授乳ケーブ1を収めて、インナーウェアとして用いることができる。

【0024】

本考案の授乳ケーブは、スナップボタンではなく、ピンチのような挟む構造を有するものを調整ベルトの端に有していても良い。このような構造をとることにより、授乳時にはアウターウェアの外側に胸元を覆うように簡単に素早く装着することができ、授乳ケーブとして用いることができる。また、本考案の授乳ケーブは、調整ベルトを長めに作製して、ユーザの首に引っかけて使用することも可能である。

10

【0025】

以上説明したように、本実施形態によれば、授乳ケーブをユーザ自身のインナーウェアに簡単に装着することを可能となる。また、留め具を複数設けた場合に、ユーザ自身で自分のサイズに合うよう調整ベルトの長さを調整することを可能となる。その結果、授乳時には、授乳ケーブの裾をアウターウェアの外に出し、授乳時のユーザの胸元を被覆する授乳ケーブとして用いることを可能とし、さらに、授乳時以外は、アウターウェアの中に授乳ケーブを収めて、インナーウェアとして用いることを可能となる。

【符号の説明】

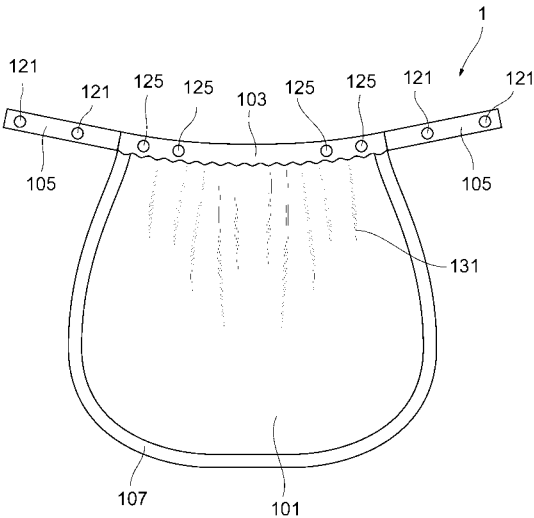
【0026】

20

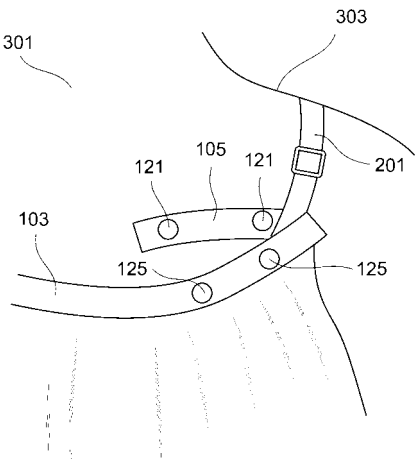
- 1 授乳ケーブ
- 2 ブラジャー
- 5 胸元の開いた洋服
- 101 前身頃部
- 103 衿ぐり部
- 105 調整ベルト
- 107 前身頃の端部
- 121 留め具、凹部、メス
- 125 留め具、凸部、オス
- 201 ブラジャーのストラップ
- 301 人体の首
- 303 人体の肩

30

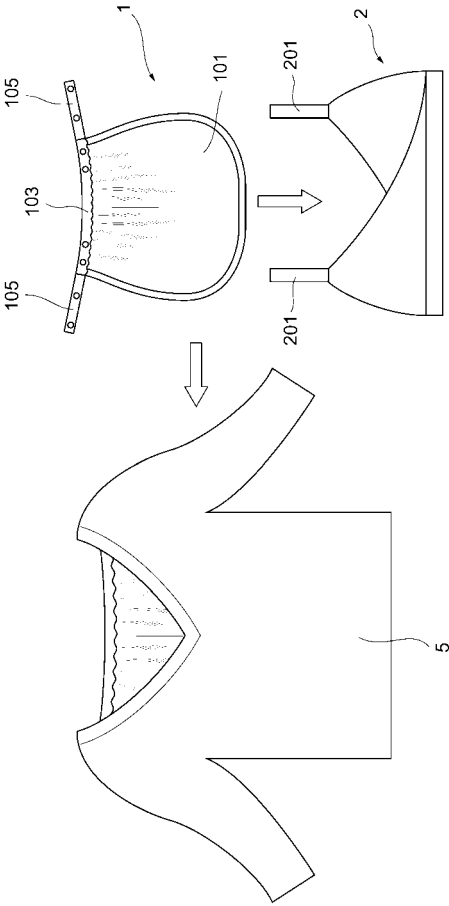
【図 1】



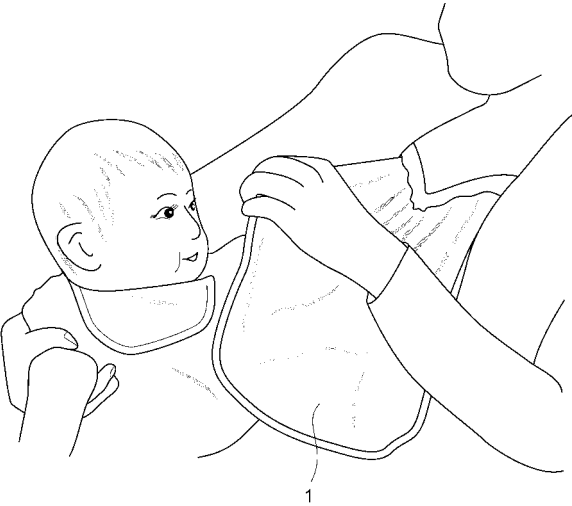
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

